# 東稲ニュース

第２４号　早稲田大学東久留米稲門会

平成１７年９月１０日発行
発行責任者　帆角　信美
編集責任者　比護　喜一郎
http://homepage2.nifty.com/35292/


## 会の告知板

**9月10日(土) 納涼会**　１７：３０～２０：００　成美教育文化会館３Ｆ
（詳細既配案内書参照）

**9月17日(土) 第11回映画鑑賞会**　14:00～　市民プラザホール
上映作品：「旅愁(September Affair)」（監督 ウィリアム・ディターレ）
ジョーン・フォンテイン、ジョセフ・コットンが演じる珠玉の愛情物語。大ヒットしたテーマ曲「September Song」が一層の叙情を添える。（詳細既配案内書参照）

**10月16日(日) 第14回ウォーキングを楽しむ集い** ―さいたま吹上のさわやかコスモスの道
（詳細添付案内書参照）

**29日(土) 東京六大学秋季リーグ早慶戦観戦会**
（詳細添付案内書参照）

**30日(日)** 13:30～14:45 **定期役員会**　成美教育文化会館
15:00～　**第17回東久留米稲門会講演会**　成美教育文化会館3F大研修室
東久留米三田会と共催。
演題　「東久留米の防災上の問題点と課題」
講師　荒川正行氏/金沢淳氏　（詳細添付案内書参照）

**[大学・校友会関係]**
10月　2日(日)　東京三多摩地区支部大会
１８：３０～　フォレストイン昭和館（昭島市昭和の森）
23日(日)　ホームカミングデイ・稲門祭
当会員受招待対象者　卒後50年目（昭和31年卒）7名、同45年目(昭和36年卒) 7名、同35年目(昭和46年卒) 4名、同25年目(昭和56年卒) 1名　計19名
11月　7日(月)　早大校友会主催総長杯争奪ゴルフ大会　おおむらさきCC
＊詳細太田(晴)ゴルフ部会長にお問い合わせ下さい。(追って案内書送達予定)

**[部会スケジュール]**
**女性サークル**　１０月３日（月）牧野富太郎記念庭園見学
**郷土研究部会**　１０月１５日（土）東久留米無形文化財「南沢獅子舞」見学　於多聞寺
集合時間/場所：午後６：００/東久留米駅西口りそな銀行前
（添付案内書参照）
**書道部会**　例会毎月第２日曜日　１３：３０～１６：３０　中央公民館２Ｆ
１０月市民文化祭書道の部に参加、
１１月２５日（金）～２７日（日）第３回書道部作品展
於成美教育文化会館１Ｆギャラリー
**太極拳部会**　毎週土曜日　１０：００～１２：００　成美教育文化会館１Ｆ
（但し9月17日、10月22日は休会）
１０月１日　例会後、創部４周年記念小宴　成美教育文化会館３Ｆ
**囲碁部会**　毎月第４日曜日　１３：００～16：30　成美教育文化会館３Ｆ和室

**ゴルフ部会**　平成 17 年度秋季東久留米W—K親睦ゴルフ会
10 月 14 日(金)　入間カントリークラブ　（詳細添付案内書参照）
**俳句部会**　10月16日(日)-17日(月)　1泊2日　秋の吟行　(四万温泉)
１１月２３日（祝日）第６８回例会、
１２月２３日（祝日）第６９回例会後忘年会

## 東稲広報室

○平成１７年度会員登録の現状（８月１日現在）
旧会員　１５６名、新・再会員　１２名、計１６８名で前年度より１名増。(参考　新規校友会費納入者があった場合、一人当たり 1,000 円の返戻金が校友会から当会に支払われることが決定されている)。尚、推薦校友候補者は８月１日受付締め切られたが、皆無であった。
○早稲田大学創立１２５周年記念事業募金状況
８月１日現在、当稲門会本年度募金額は，２３万６千円（１１８名)。前年度同時点での３２万４千円（１６２名）に比して大幅に下回っている。１１月１０日大学に納金予定。
○ホームカミングデイ・稲門祭での福引券当会割り当て分１２万円は会員各位のご協力により完売。ふるさと賞の提供依頼があったが今年度は見送り。
○ポストマン担当者、区割りを見直し、８月より新体制で実施（添付リスト参照)。
○１０月９日(日)午後１時３０分より中央公民館にて、慶応義塾東久留米三田会主催による「東久留米　秋の歌声コンサート」が開催される。出演は慶応義塾ワグネル・ソサイエティ男性合唱団（明治３４年に発足、後にダークダックスを輩出している）と東久留米文化協会所属の井上淑子さん並びに地元少年少女合唱団「みずうみ」。入場料は全席 1,000 円。チケットはブックセンター滝山/小山/東久留米/ラピタ各店、野崎書店、スター☆ブックス他で販売されている。
○８月９日(火)、市商工会館で開催された東久留米ロータリークラブ例会において、国米家己三さんが講演。演題は「この国の足場　日本の民族性を考える」。日本人の「清潔志向」など示唆深い話に多くの出席者は共感した。

## 会の行事

### 定期役員会

８月７日(日)、中央公民館にて開催。納涼祭の開催等を決めた。「杜の西北」については、早急に臨時役員会を招集し、編集委員、内容・形式等継続討議する事にした。

## 大学・校友会の行事

早稲田大学東京三多摩支部会長会開催
８月２７日（土）午後３時半から御岳・勝仙閣で、白井総長、大久保東京都２３区支部長ほか大学関係者が出席のもと開催され、平成１６年度の事業・決算報告、平成１７年度支部大会開催、次期主管稲門会（町田、調布）などが審議され、承認された。当会より帆角会長出席。

早稲田大学商議員会
７月１６日、早大新棟８号館にて開催された。当会より安宅元会長、帆角/菱山/平山各議員が出席。大学の近況・事業報告のあと、新施設見学し懇親会に移った。

# 部会便り

## 太極拳部会

本年7.8月の炎暑は「暑いですね」を超えて「熱いですね」が実感の日々でした。その様な天候にも拘らず、毎週太極拳をされる皆さんの熱意には心を打たれます。早いもので 8 月末に満 4 周年を迎え、80 回以上稽古された方が 22 人に達しました。今後も自分の健康.他人の健康を願って精進して行きたいものです。

10 月に懇談昼食会、11 月に所沢キャンパスで野外稽古の予定です。皆さんのご参加をお待ちいたします。　（部会長　船尾和三）

## 俳句部会

7月１７日（日）第６６回例会　中央公民館第５集会学習室

兼題　「日傘」と当季自由句　　席題　「アイスクリーム・ソフトクリーム」

高得点(3 点以上)句

| | |
|---|---|
| 道間ひて道づれとなる夏帽子 | 太田蔵之助（千雪） |
| アイスクリーム未練ひきずる負け試合 | 杉本　達夫 |
| パラソルを少し傾け遠会釈 | 河村　洋子 |
| 臥す妻にレシピを聞きて豆の飯 | 安宅　武一 |
| 閉じてさしさしては閉じる初日傘 | 川島　知子 |
| ニコライ堂下る坂道白日傘 | 橘　　優治 |
| ソフトクリーム舐めつつ無沙汰詫び合へり | 三田　三（畔巣） |

9月４日（日）第６７回例会　中央公民館第５集会学習室

兼題　「とんぼ」と当季自由句　　席題　「台風」

高得点（3 点以上）句

| | |
|---|---|
| 湧き水の里に風立つ今朝の秋 | 三田　三（畔巣） |
| 赤とんぼ群れ飛ぶ里や登り窯 | 桜庭　明 |
| 新涼や神話の里におろち舞う | 大久保泰司 |
| 八月や自分史語る傘寿の師 | 河村　洋子 |
| ひぐらしや古刹の森にしみとをる | 松田　博雄 |
| 台風の外れ安堵の床につく | 太田蔵之助（千雪） |
| 閉ざされし古刹の御堂夕とんぼ | 比護喜一郎 |
| 台風一過天突き抜ける青さかな | 大川　洋子(浩仙) |

## 囲碁部会

8月28日(日)の例会に、オール早稲田囲碁祭りの元締めで、早稲田囲碁界の有力者である志水一夫氏(大学商議員・校友会事業委員会委員・早大囲碁部OB)が、突然来訪されました。氏は校友会の有力囲碁部を巡回訪問しておられ、当方にも来る予定が、先方の都合で何回か流れていた経緯があり、今回の劇的とも言える来訪は大歓迎でした。例会出席者が、いつもより若干少なかったのはちょっと残念でしたが、早速指導碁を受け、また夕刻よりの懇親の席では、早稲田を中心とした棋界の四方山話に花が咲き、楽しい一夕を過ごしました。　（部会長　辰己徳蔵）

## 女性サークル

残暑厳しい此の頃ですが、皆様如何がお過ごしですか。秋の行事として、10月3日（月）牧野記念庭園（世界的植物学者牧野富太郎邸）を見学することにしました。是非ご参加下さいますようご案内申し上げます。　（部会長　棚野愛子）

## 書道部会

当書道部は昨年に引き続き第35回市民文化祭に作品を出展致します。皆様の参観をお待ちしております。平成17年11月2日（水）～6日（日）中央公民館2階。

（9月7日（水）・8日（木）両日　第4回合宿練成会を榛名湖畔、“ゆうすげ荘”にて行われた。詳細次号に掲載）

---

＜会員リレーエッセイ＞　～***噴水広場***～

# 「言葉は力なり」

**野田　一博**（30年・法）

「継続は力なり」という言葉をよく耳にするが、私も全くその通りだと思う。と同時に、私は自らの体験から、「言葉は力なり」ということを信じている。

私は若い頃から、座右の銘や名言などに殊のほか関心をもってきた。そのため名言集、格言集、名語録、金言集、処世訓、座右の銘といった本に出会った時には極力購入してきた。数年前に必要に迫られて、そのジャンルの蔵書をリストアップしたところ約９０冊あった。加齢とともに、この種の本の購入は少なくなったが、私の強い購書意欲を支えているのは津田左右吉氏の次の言葉である。即ち、「本というものは、僅か数行でも役立てば、それだけで充分値打ちのあるものだ」。同時にこの言葉のお陰で、私には“積ん読”ことが全く気にならない。

私が名言に最初に出会ったのは、小学校６年の時である。担任のＴ先生が、旧制中学を受験するわれわれ児童に向かって話してくれた「人事を尽して天命を待つ」という言葉が私の脳裏に深く刻み込まれた。そして、この言葉が私の一生の座右の銘となった。

中学・高校は旧制中学から新制高校への移動期で、通算６年間を同じ県立高で学んだ。その間に最も強い影響を受けた恩師のＳ先生（国語・西洋史担当）から、高校卒業時にいただいた言葉（寄せ書き帳に書いていただいた文章）が、その後の私を支える大きな力となった。その前半は、先生から見た私の人間像についての記述であり、後半は西欧の文豪の名言のいくつかであった。まず前者は、「色の表情の青(沈静・深遠・神秘・理知)・・・ぴったりしていないところがある。君には青に赤が含まれているのかも知れない。表面には出ないが、烈々たる熱情がある・・・」。先生の鋭い観察眼と巧みな表現力に感心するとともに、この寸評が自分自身を見直すきっかけとなった。後者については、最も心に残る次の二つの名言を紹介させていただく。即ち、「各自の魂からしみじみと湧き出たものでなければ、凡てのことは徒労である(ゲーテ)」、「幸福とは、己の分を知って之を愛することである（ロラン）」。特にロランの言葉は、才能が意欲に追いつかずに、悩むことの多かった自分自身を納得させる言葉として、折りに触れて何度も口ずさんだ。

社会人となって間もない頃に出会った本の中で、特に印象に残っているものとしては、「ビジネスマン名言集―仕事の不安・失望・挫折感に答える」（畠山芳雄著）と「私をささえた一言―勇気と決断力の座右の銘」（扇谷正造編）がある。前者はビジネスマン向けの名

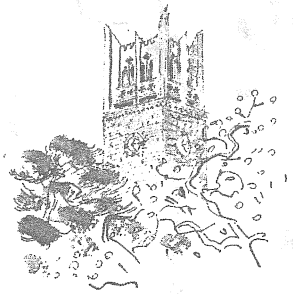
言集のはしりと言ってもよいものであるが、３０歳前後の迷い多き時期には、この本を繰り返し読んで自らを励ました想い出がある。

また私の愛読書の一つに、江戸末期の儒学者・佐藤一斎の「言志四録」（言志録・言志後録・言志晩録・言志耋録の四書の総称）がある。この本は佐藤一斎の語録であり、「人間学」の好指導書といってもよいものである。「言志四録」といえば、平成１３年に小泉首相が当時の外務大臣の田中真紀子氏に、「重職心得箇条」（言志後録の付録）をプレゼントしたことにより一躍有名になった。私は３０代の中頃、社員教育を担当する部署に配属されたことがあり、その仕事を通して「言志四録」に出会った。「言うは易く行うは難し」というが、この本の教えをもっと忠実に実行していたら、もう少し悔いの少ない人生を送ることができたかも知れないと思うと残念である。そんな中で、今実行しつつあることが一つだけある。それは佐藤一斎の「我れ恩を人に施しては、忘るべし。我れ恵みを人に受けては、忘るべからず」（言志耋録第１６９条）という教えである。具体的には母校への報恩の意味で、創立１２５周年記念事業募金に、東久留米稲門会の枠外で応募させていただいている点である。

私は昭和２０年代後半に大学に在学したが、当時は終戦後間もなくであり、地方のサラリーマン家庭の子女が、東京に遊学するのは経済的に容易なことではなかった。そんな訳で、最初の１年間は静岡県三島市の自宅から往復約８時間をかけて通学した。そのような時に大隈奨学金という授業料免除の制度があることを知り、早速それに応募した。運よく第２学年から第４学年までの３年間の授業料の免除を受けることができた。返済義務がなかったので、そのまま数十年が過ぎてしまった。平成３年に母が亡くなった際に、遺品を整理したところ、仏壇の引出しの中から奨学生採用通知書が出て来た。多分、母が感謝の気持ちを込めて、大切に保管していたものとみられる。それを見て学生時代のことを懐かしく思い出し、大隈奨学金のお陰で少しでも親孝行ができたことに改めて感謝した。と同時に苦しい時に助けていただいた大学に対し、なにがしかのご恩返しをしようと思い立った。その中身については色々と思案した結果、最近の授業料の３年分を目途として寄付をしようと決めた。そして、当初は大隈記念奨学基金への寄付を考えていたが、そうこうしているうちに創立１２５周年記念事業募金が始まったため、その募金に分割して応募することにした。

なお、以上のような事柄をこのような場で語るのは、或いは憚るべきことかも知れない。しかし、相対的にみて、分不相応とも思える行為への説明の意味も込めて、敢て触れさせていただくこととした。就いては、事情をご理解の上、何卒ご諒承をいただきたい。

（平成１７年７月２６日）



## 会員の声

### “切符は契約書である”

山﨑敬雄（31年・政経）

JR 西日本福知山線の痛ましい事故から四ヶ月が過ぎた。被害者（犠牲者ではない）の方々には心からお見舞いを申し上げたいと思うと同時に、加害者(と敢えて言う)には猛省を促したい。

私は「犠牲とは、より重要な目的のため、あることを切り捨てること」と理解している。乗客の皆様は、どの程度のスピードまでカーブを曲がることができるかの実験に志願して犠牲になったのではない。

この事故に関しては断片的ではあるがいろいろな感想があった。「他の私鉄との競合で安全よりも利便性を優先させた」、「運転手の教育に問題があった」、「社員構成にヒズミがあり、運転技能の伝承が、先輩から後輩に円滑に行われていなかった」、「A.T.S.が設置されていなかった」、等々である。また、「いまだに『官』の安逸さから脱しきっていない」というのもあった。

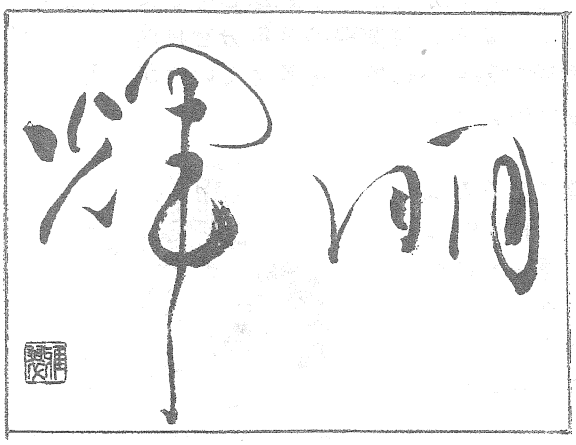
私は、「切符＝乗車券」は単なる通行券、領収証、施設利用券ではなく、完璧に「契約書」だと考えている。「あなたを希望するところまで安全に運びます」というのがその契約の骨子である。約束した時間(一定の限界はあるにせよ)内に列車が到着しなかったときに、特急料金の払い戻しがあるのは、この契約の一部である時間について約束が守れなかったから、つまり契約が履行できなかったことに対する償いではないか。私はこの事故は JR 西日本の『債務不履行』と思っている。

だとすると、事故発生直後の社長のお詫びの言葉は、そのことに触れ、「当会社は切符記載の料金で利用できる範囲において、乗客の皆様を安全にご希望の場所までお運びする約束をしながら、その約束を守ることができませんでした。この事故に関しましては、全面的に当会社に責任がありますので、全社をあげて現状の回復もしくは損害の補填をすることを確約致します。また、鉄道施設外の方々の損害にもその賠償に全力を尽くします。」 少々クドイがこのような言葉であるべきであった。

ともかく、交通機関は一にも、二にも安全でなくてはならない。安全がサービスの最低条件であるなどと今頃いうのでは情けなさ過ぎる。

蛇足ながら、不思議に思うことがある。この福知山線は6月19日に運行が再開された。この日、事故現場を通過する電車の運転席にいた社長は、制帽に挙手の礼で、被害者にお詫びをしていた。この制帽は、そして挙手の礼はなにを象徴しているのか？ このタイプの制帽の下には一定の規律と重大な責任が期待されているのでは？ あるいはそれ以上か？ どなたか教えて欲しい。

## 趣味悠遊 ― 会員作品紹介



書 ― “明輝”
高橋 勤さん

そば打ち
松崎 博さん

［編集後記］

○日本の夏にはすばらしい叙情がある。全国高等学校野球選手権大会がそれだ。勝って泣き負けて泣く若者達の純真な姿は毎夏爽やかな感動と郷愁を運んでくれる。○甲子園の夏が終わると、巷は俄かに喧騒の現世に戻り、全国各地に、時ならぬ“刺客”や“くの一”が現れ、果ては“落下傘”まで降りてくる。立秋を越したというのに、なんとも物騒で暑苦しいことである。○高校球児たちよ、甲子園で起こした爽やかな風を、今しばし全国津々浦々に吹き続けてくれまいか。○今日も、残暑が厳しい。